

【情報名】 有袋栽培ナシ豊水のみつ症防止対策							
部門	果樹	専門	生理	分類	研究	連絡先	栽培部
【実施機関名】 三重県農業技術センター						☎05984-2-6358	
【要約】 豊水有袋栽培における、みつ症防止対策については、幼果期に炭酸石灰（クレフノン）3%液の4回散布で軽減効果がある。なお、その散布は、袋掛け前に行い、幼果面に直接薬剤がかかる必要がある。							
キーワード：豊水、有袋栽培、みつ症防止対策							

【背景・ねらい】

ニホンナシ第2の面積を占める豊水のみつ症は、冷夏年や簡易被覆栽培で多発することがあり、外観からの判別が困難で商品性が損なわれ、産地の信用問題になりかねない。そこで、その防止対策の樹立が急務である。

【情報の内容・特徴】

有袋栽培豊水のみつ症防止効果について、場内の簡易被覆栽培23年生樹を用いて、各種資材の処理をおこない、以下のような結果を得た。

1. みつ症防止効果は、前期（満開後40～70日）のクレフノン3%液4回散布が最も安定し、後期（満開後90～100日）のアミノ酸キレート石灰、バクロブトラゾール（PP-333）などが有効である。
2. クレフノンの散布は、袋掛け後では防止効果が少ないので、直接幼果に薬剤がかかる袋掛け前におこなう必要がある。
3. クレフノンの散布による、果実品質への悪影響はない。

【情報活用上の留意点】

豊水の幼果期散布における、一般防除薬剤との混用適否の検討。

【具体的データ】

表1. みつ症発生程度（簡易被覆栽培、収穫8月27日）

処理区	調査果個数	程度別発生果率(%)				発生果率(%)	重度発生果率(2~3)(%)	発生度
		0	1	2	3			
1	30.0	41.1 ^c	31.1	10.0	17.8	58.9 ^a	27.8	28.0
2	30.0	71.1 ^{ab}	18.9	6.7	3.3	28.9 ^{bc}	10.0	9.8
3	30.0	67.8 ^{ab}	14.5	7.8	10.0	32.2 ^{bc}	17.8	16.7
4	30.0	80.0 ^a	16.7	1.1	2.2	20.0 ^c	3.3	5.6
5	30.0	55.5 ^{bc}	25.6	8.9	10.0	44.5 ^{ab}	18.9	18.7
6	30.0	46.7 ^c	36.7	5.5	11.1	53.3 ^a	16.6	20.5
有意性		**	NS	NS	NS	**	NS	NS

注) 英小添字はDuncan's multiple range test(5%)により異符号間で有意。

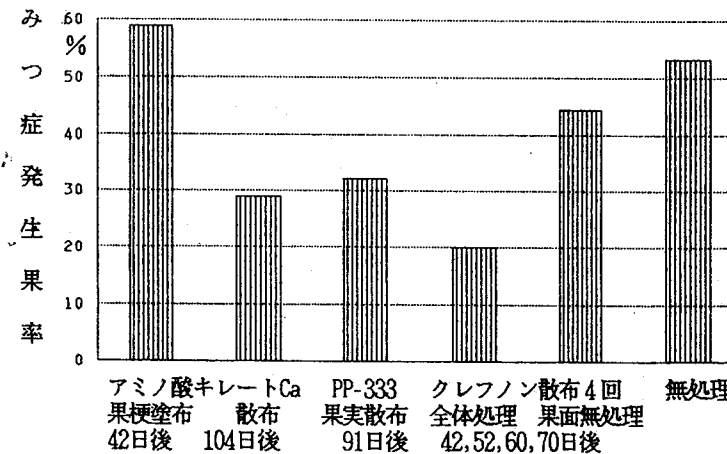


図1. みつ症発生果率

【その他特記事項】

研究課題名：ナシ・カキ・ウメの成熟異常果防止実用化技術の確立
 研究期間：平成元年～3年
 予算区分：県単
 研究担当者：前川哲男、輪田健二